

3 野菜類

農薬取締法上、「とうもろこし」「未成熟とうもろこし（スイートコーン）」は野菜類ではなく穀類に含まれるので注意する。ただし、「ヤングコーン」は野菜類に含まれる。

この項目では「野菜類」の作物群に対する登録内容のみを記載している。個別作物に対する登録内容については当該作物のページを参照すること。

べと病

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ドイツボルドーA](#) <M1> 【500～1000倍 ー／ー】
 - ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 ー／ー】
 - ・ [クプロシールド](#) <M1> 【1000～2000倍 発病前～発病初期／ー】

灰色かび病

留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。
- 3 密植を避け、通風をよくする。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [エコショット](#) <BM2> 【1000～2000倍 前日／ー】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カリグリーン](#) <NC> 【野菜類（除トマト、ミニトマト） 800倍 前日／ー】
 - ・ [ハーモメイト水溶剤](#) <NC> 【800倍 前日／ー】

うどんこ病

留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用时には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 密植を避け、通風をよくする。
- 2 窒素質肥料の過用を避ける。
- 3 施設内では適度のかん水を行い、過乾を避ける。特に温風暖房を行うところでは注意する。
- 4 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [サフオイル乳剤](#) <—>
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300倍 前日／—】
 - ・ [イオウフロアブル](#) <M2>
【野菜類（除すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちご） 500～1000倍 発病前～発病初期／—】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [サンクリスタル乳剤](#) <—>
【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく） 300～600倍 前日／—】
 - ・ [エコピタ液剤](#) <—>
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす） 100倍 前日／—】
 - ・ [カリグリーン](#) <NC>【野菜類（除トマト、ミニトマト） 800～1000倍 前日／—】

黒腐病**防除方法**

- 1 健全な種子を使用する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コサイド3000](#) <M1> 【2000倍 —／—】
 - ・ [コサイドDF](#) <M1> 【1000倍 —／—】
 - ・ [コサイドボルドー](#) <M1> 【1000倍 —／—】
 - ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 —／—】

白さび病**防除方法**

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 ほ場の排水をよくする。
- 4 密植を避け、通風をよくする。
- 5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

- ・ [ジーファイン水和剤](#) <NC> <M1> 【野菜類（除なす） 1000倍 前日／－】

軟腐病

防除方法

- 1 ほ場の排水をよくする。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 連作を避ける。
- 4 ヨトウムシ類などの食害昆虫の防除に努める。
- 5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コサイド3000](#) <M1> 【2000倍 ー／ー】
 - ・ [ジーファイン水和剤](#) <NC> <M1> 【野菜類（除なす） 1000倍 前日／－】
 - ・ [バイオキーパー水和剤](#) <－(生)>
 - 【野菜類（除かぼちゃ、ズッキーニ） 500～2000倍 発病前～発病初期／－】
 - ・ [クプロシールド](#) <M1>
 - 【1000～1500倍 発病前～発病初期／－】

褐斑細菌病

防除方法

- 1 健全な種子や台木および穂木を使用する。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 被害茎葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コサイド3000](#) <M1> 【2000倍 ー／ー】
 - ・ [コサイドDF](#) <M1> 【1000倍 ー／ー】
 - ・ [コサイドボルドー](#) <M1> 【1000倍 ー／ー】
 - ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 ー／ー】

黒斑細菌病

防除方法

- 1 健全な種子を使用する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 4 密植を避け、通風をよくする。
- 5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 ー／ー】

さび病

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 連作を避ける。
- 3 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [カリグリーン](#) <NC> 【野菜類（除トマト、ミニトマト） 800倍 前日／ー】
- ・ [ハーモメイト水溶剤](#) <NC> 【800倍 前日／ー】

斑点細菌病

防除方法

- 1 うり科野菜の連作を避ける。
- 2 施設栽培では、施設内が多湿とならないようにする。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

- ・ [コサイド3000](#) <M1> 【2000倍 ー／ー】
- ・ [クプロシールド](#) <M1> 【1000～2000倍 発病前～発病初期／ー】
- ・ [コサイドボルドー](#) <M1> 【1000倍 ー／ー】
- ・ [Zボルドー](#) <M1> 【野菜類（除キャベツ） 500倍 ー／ー】

アザミウマ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 施設栽培では、栽培終了後にすべて閉め切り、蒸し込むことで殺虫する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ボタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／ー】
- ・ [スワルスキー](#) <ー(生)>

【野菜類（露地栽培） 250～500ml／10a（約25000～50000頭） 放飼

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

(放飼後の厳冬期の月平均気温が10℃を下回る地域) 発生直前～発生初期／－】
 【野菜類（施設栽培） 250～500ml／10a（約25000～50000頭） 放飼
 発生直前～発生初期／－】

コナジラミ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 施設栽培では、栽培終了後にすべて閉め切り、蒸し込むことで殺虫する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [サフオイル乳剤](#) <－>

【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300倍 前日／－】

- ・ [ムシラップ](#) <－> 【500倍 前日／－】

- ・ [オレート液剤](#) <－> 【野菜類（除いちご） 100～300倍 発生初期～収穫前日／－】

- ・ [ボタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／－】

- ・ [スワルスキー](#) <－(生)>

【野菜類（施設栽培） 250～500ml／10a（約25000～50000頭） 放飼
 発生直前～発生初期／－】

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [サフオイル乳剤](#) <－>

【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300～500倍 前日／－】

- ・ [エコピタ液剤](#) <－>

【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす） 100倍 前日／－】

- ・ [オレート液剤](#) <－> 【野菜類（除いちご） 100倍 発生初期～収穫前日／－】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [粘着くん液剤](#) <—> 【100倍 前日／—】
- ・ [ポタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／—】

コナガ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>
 - 【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000～2000倍 発生初期（収穫前日）／—】
 - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／—】
 - ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【1000～2000倍 発生初期（収穫前日）／—】
 - ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000～2000倍 発生初期（収穫前日）／—】
 - ・ [ポタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／—】

ウリノメイガ

防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／—】
 - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>
 - 【うり科野菜類 1000倍 発生初期（収穫前日）／—】
 - ・ [チューンアップ顆粒水和剤](#) <11A>
 - 【野菜類（除トマト、ミニトマト） 3000倍 発生初期（収穫前日）／—】

オオタバコガ

防除方法

- 1 若齢幼虫のうちに防除する。
- 2 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>
 - 【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000倍 発生初期（収穫前日）／—】
 - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／－】

ヨトウムシ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 卵塊や集団になっている幼虫を見つけたらすぐに取り除く。
- 2 若齢幼虫のうちに防除する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【500倍 発生初期（収穫前日）／－】
- ・ [エスマルクDF](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／－】
- ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／－】
- ・ [トアロー水和剤CT](#) <11A>
【野菜類（除パセリ、えごま（葉）） 500～1000倍 発生初期（収穫前日）／－】
- ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>
【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000～2000倍 発生初期（収穫前日）／－】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 卵塊や集団になっている幼虫を見つけたらすぐに取り除く。
- 2 若齢幼虫のうちに防除する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【500倍 発生初期（収穫前日）／－】
- ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／－】
- ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／－】
- ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>
【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000倍 発生初期（収穫前日）／－】

シロイチモジヨトウ

留意事項

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 卵塊や集団になっている幼虫を見つけたらすぐに取り除く。
- 2 若齢幼虫のうちに防除する。
- 3 施設栽培では、開口部に目合いの細かい防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防ぐ。
- 4 ねぎでは、葉の内部へ潜り込む前に防除する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／－】
 - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>
 - 【野菜類（除キャベツ、はくさい） 1000倍 発生初期（収穫前日）／－】

タマナギンウワバ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／－】

アオムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) <11A>
 - 【野菜類（除はくさい、キャベツ） 1000～2000倍 発生初期（収穫前日）／－】
 - ・ [バシレックス水和剤](#) <11A> 【1000～2000倍 発生初期（収穫前日）／－】
 - ・ [トアロー水和剤CT](#) <11A>
 - 【野菜類（除パセリ、えごま（葉）） 1000～2000倍 発生初期（収穫前日）／－】
 - ・ [フローバックDF](#) <11A> 【1000～2000倍 発生初期（収穫前日）／－】
 - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) <11A> 【1000倍 発生初期（収穫前日）／－】

ハダニ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 育苗時の防除を徹底する。
- 2 ほ場内や周辺の除草を行う。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [サフオイル乳剤](#) <—>
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300～500倍 前日／—】
- ・ [ムシラップ](#) <—> 【500倍 前日／—】
- ・ [エコピタ液剤](#) <—>
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なす） 100倍 前日／—】
- ・ [ボタニガードES](#) <UNF> 【1000倍 発生初期／—】
- ・ [スパイカルEX](#) <—(生)>
【100～1250ml／10a(約2000～25000頭) 放飼 発生初期／—】または
【20～3000頭／100株 放飼 発生初期／—】

チャノホコリダニ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- 2 摘葉や摘芯後の残さはほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- 3 薬剤は新梢部や葉裏を重点に散布する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [サフオイル乳剤](#) <—>
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト） 300倍 前日／—】
 - ・ [スワルスキー](#) <—(生)>
【野菜類（施設栽培） 250～500ml／10a(約25000～50000頭) 放飼
発生直前～発生初期／—】

ナメクジ類

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [クプロシールド](#) <M1> 【1000倍 発生前～発生初期／—】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スラゴ](#) <—>
【ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等
1～5g／㎡ ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生
あるいは加害を受けた場所または株元に配置 発生時／—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—MEMO—

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。